

平成29年度

学 生 便 覧



木更津工業高等専門学校

この「学生便覧」は、本校で学生生活を送るための手引きとして、学生に直接関係のある事項について記載してあります。

学生の皆さんは、この「便覧」を必ず通読し、必要に応じていつでも活用して、学生生活を豊かな実りあるものにするため役立ててください。

木更津工業高等専門学校

〒292-0041

千葉県木更津市清見台東2丁目11番1号

TEL 0438-30-4000 (代表)

0438-30-4003 (電話案内サービス)

0438-30-4038 (学生課)

FAX 0438-98-5403 (学生課)

本校公式 HP <http://www.kisarazu.ac.jp>
情報掲示板 <http://keitai.kisarazu.ac.jp/selecti/>

在校生・保護者専用 <http://student.kisarazu.ac.jp/>

目 次

○ 教育方針	1
○ 校章の由来	1
○ 創立 50 周年記念ロゴマークについて	2
○ 本校の教育課程	3
○ 准学士課程の学習・教育目標	4
○ 各学科の専門科目および一般科目の達成項目	5
○ 専攻科課程の学習・教育目標	6
○ 各専攻の専門科目の達成項目	7
○ 「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標	8
○ 学生心得	10
○ 校歌(風のランナー)	14
○ 学生歌(友愛の丘)	16
○ 行事予定表	18

1 学習案内

1-1 学 期	23
1-2 休 業 日	23
1-3 教育課程	23
1-4 授業科目	24
1-5 成績の評価	24
1-6 試 験	24
1-7 年度内再評価	25
1-8 再 履 修	25
1-9 修了の条件・留年・仮進級・卒業の条件	26
1-10 休学・復学・退学	27
1-11 特別学修	27
1-12 本校以外の教育施設における学修	28
1-13 学外実習	28
1-14 試験受験心得	29
1-15 成績及び出欠席の訂正について	30
1-16 准学士課程及び専攻科課程の教育課程表	31
1-17 専攻科課程の履修要領	76
1-18 シラバスの利用方法	79
1-19 「生産システム工学」教育プログラムの履修対象者	79
1-20 教育課程終了後の主要国家試験資格等	81

2	学生生活	
2-1	学生と直接関係のある事務窓口	87
2-2	諸手続	87
2-3	学生に関係のある主な証明・願・届 (学生証・学割証・時間外在室願・アルバイト許可願・欠席届)	89
2-4	服 装	91
2-5	学生ロッカー	91
2-6	遺失物及び拾得物	92
2-7	クラス役員	92
2-8	清 掃	93
2-9	特別な事情による臨時休業について	96
2-10	表 彰	96
2-11	自転車通学	96
2-12	車両通学	97
2-13	学校への納付金	97
2-14	学 寮	98
3	福利厚生	
3-1	授業料の免除等	103
3-2	高等学校等就学支援金	103
3-3	奨学金制度	103
3-4	保健室	104
3-5	学生相談室の利用	105
3-6	キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談について	106
3-7	日本スポーツ振興センター「災害共済給付制度」	108
3-8	団体学生総合保険について(任意加入)	109
3-9	学校感染症について	109
4	施設の利用	
4-1	図書館	117
4-2	学友会館内合宿研修施設	118
5	学則と諸規則	
5-1	学 則	123
5-2	学業成績審査規程	133
5-3	本校以外の教育施設における学修に関する規程	137
5-4	専攻科授業科目の履修等に関する規程	138
5-5	「生産システム工学」教育プログラムの履修等に関する規則	141

5-6	「生産システム工学」教育プログラムに係る 科目の実力認定試験に関する申し合わせ	142
5-7	ティーチング・アシスタント実施要項	143
5-8	学生の身分の取り扱いに関する規程	145
5-9	授業料の納付を怠る者に係る取扱要領	147
5-10	外国人留学生特例規程	148
5-11	留学規程	150
5-12	留学取扱要領	152
5-13	学生準則	153
5-14	授業料免除・徴収猶予及び寄宿料免除に関する規程	158
5-15	合宿規程	160
5-16	合宿研修施設使用要領	161
5-17	プール使用内規	162
5-18	プール使用心得	163
5-19	学生車両等通学規程	164
5-20	車両通学生組織に関する要領	166
5-21	学生の表彰に関する内規	167
5-22	服装基準	168
5-23	学寮規程	169
5-24	図書館運営細則	172
5-25	貸出図書を所定の期限までに返却しなかった場合の 取扱いについて.....	174
5-26	学生の災害時の避難要領	176
5-27	職業紹介業務運営規程	177
5-28	木更津工業高等専門学校いじめ防止基本方針.....	178
6	学友会活動	
6-1	学友会の活動	183
6-2	学友会規約	184
6-3	学友会部細則	192
6-4	学友会選挙細則	194
6-5	学友会会計細則	196
6-6	学友会館運営憲章	198
6-7	学友会館使用規程	200
6-8	学友会館運営細則	201
7	卒業後の進路	
7-1	学科の就職	207
7-2	学科の進学	208
7-3	専攻科の就職と進学	209

8 資 料

8-1	本校の沿革	213
8-2	学校配置図	217
8-3	職員名簿	228
8-4	学友会クラブ等指導教員一覧	230

教 育 方 針

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自ら考え自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の三つの能力を備えなければならない。

本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市の各工学分野において、自らが専門とする科学技術の最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域に対する率先した取り組みも含め、広範に活躍しうる技術者の養成に努める。

(3) 心身の鍛錬

将来、すぐれた技術者として社会に貢献するためには、健康な身体と精神を培うことが必要である。

本校は教科教育に加え課外活動への参加を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

校 章 の 由 来

本校の校章は、所在地千葉県の県花である十字花植物の菜の花をかたちどり、その4枚の花弁が互いに力強く組み合っている形は、本校学生のゆるぎない協力と団結の姿を表わし、また上下左右にのびる花弁は、それぞれに輝かしい未来に向かってたくましく向上、発展する姿を示したものである。

創 立 5 0 周 年 記 念 ロゴ マー ク に つ い て

平成29年度に創立50周年を迎える本校では、このたび記念のロゴマークデザインを公募し、学内外からの60点の応募作品の中から厳正な審査の結果、大学院でデザインを学ぶ一般応募の本木礼夫 氏（もときれおが）さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

受賞作品は、木更津市のシンボルの木である「椿」にテクノロジーの礎として「六角ナット」を組み合わせたものとなっており、スクールカラーである「濃い紫みの青」を構成色として高専の更なる発展を期待させる若々しいデザインとなっています。また、このたびの応募作品からは、優秀賞と中学生特別賞がそれぞれ1点選ばれています。



ロゴマーク画像

本校の教育課程

本校には次のような教育課程および教育プログラムがあります。

準学士課程(学科)

本校の準学士課程では、5年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の5つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています(従来本科と表記)。

専攻科課程(専攻科)

本校には、5年間の準学士課程の上級コースとして2年間の専攻科(機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻)があります。専攻科は、準学士課程における5年間一貫教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的としています。

「生産システム工学」教育プログラム

本校の準学士課程の4年次から専攻科課程の2年次までの4年間にまたがる「生産システム工学」教育プログラムを設定し、国際化に対応できる技術者教育を行っています。本教育プログラムは、最も得意としている専門分野の知識と能力を身につけ、さらに異なる技術分野を理解し、両分野の知識を複合させる能力を身につけることを目的としています。この教育プログラムは日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されています。

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。
- (2) 他者と協力して問題解決に向けた行動力を身につける。

各学科の専門科目および一般科目の達成項目

機械工学科：材料力学・材料分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する知識を修得し、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発の素養を身につけること。

電気電子工学科：電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる知識を修得し、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる能力を身につけること。

電子制御工学科：制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、制御システムに関する設計や問題解決に対応できる能力を身につけること。

情報工学科：情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野に関する知識を修得し、総合的な情報処理システムの知識を身につけること。

環境都市工学科：構造力学、水理学、土質力学、測量学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境工学等の環境工学に関する知識を修得し、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけること。

人文学系：国語、社会、保健・体育、外国語等の修得を通じ、心身の鍛練と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を獲得し、国際的視野を持ち、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力を身につけること。

基礎学系：数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎の知識の修得を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになること。

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として

自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者

をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

A. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (A-1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (A-2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

B. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (B-1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (B-2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (B-3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (B-4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

C. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (C-1) 日本語の記述能力を身につける。
- (C-2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (C-3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

D. 創造力(デザイン能力)

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

- (D-1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。
- (D-2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること。
- (D-3) リーダーシップを発揮しながら他のメンバーと協力して、問題解決に向けた実践的な行動をとれること。

各専攻の専門科目の達成項目

(1)機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある能力を身につけ、先端技術に対応した研究開発ができること。

(2)制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関する知識を修得し、創造的、実践的な制御システム・情報システムの研究開発ができること。

(3)環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。

「生産システム工学」教育プログラムの技術者像と学習・教育到達目標

(「生産システム工学」教育プログラム履修の手引から抜粋)

育成すべき技術者像

「生産システム工学」教育プログラムでは、次のような技術者の育成を目指す。

養成すべき技術者像：

自主自立の精神と国際的視野を持ち、以下の知識及び能力と実践力を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

学習・教育到達目標

「生産システム工学」教育プログラムでは、上に示した技術者を育成するために (A)～(D) の学習・教育到達目標を設定している。

(A) 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者

(A-1)豊かな人間性と健康な心身を培う。

- ・健康や体力についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、生涯スポーツの礎を構築できること
- ・文芸作品を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深められること

(A-2)技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

- ・歴史学習を通して技術者が持つべき社会観を構築できること
- ・技術に関係する事故等の検討を通して、技術者としての社会的な責任と使命について理解できること
- ・環境問題と社会の関係についての概略を理解できること
- ・自然環境に関する基礎的事項を理解できること

(B) 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術について、その基礎となる理論及び原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者

(B-1)数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思想能力を身につける。

- ・数学および自然科学の基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題を解けること
- ・実験を通して現象を理解できること

(B-2)最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。

- ・各分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて実際の工学的な現象を理解できること

(B-3)異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。

- ・異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合するために、専門分野以外の工学の基礎知識を身につけること

(B-4)実験・実習を通して実践的技術を身につける。

- ・実験・実習を通して、実際の工学現象を理解し、実践的技術を身につけること

(C) コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現する技術者

(C-1)日本語の記述能力を身につける。

- ・国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉で表現できること

(C-2)情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。

- ・コンピュータによる情報処理や情報収集等ができること
- ・コンピュータを用いて、卒業研究や専攻科特別研究の内容を発表・討論できること

(C-3)国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

- ・国際的に活躍するための基礎的な語学力、特に英語力を身につけること

(D) 創造力（デザイン能力）

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者

卒業研究や専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

(D-1)問題解決のために修得した専門知識を応用できること

(D-2)創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること

(D-3)チームの中で他のメンバーと協力しながら、問題解決に向けた適切な行動をとれること

学 生 心 得

（目 的）

- 1 この学生心得は、木更津工業高等専門学校学生準則第 2 条の規定に基づき、学生が本校在学中に自ら努力すべき人間形成の目標を示すとともに、訓育指導に関する学校の方針を明らかにすることを目的とする。

（学問の修練）

- 2 学生は、教えられることを学ぶだけでなく、自ら進んで学問をする境地に進むことを、本校在学中の重要な目標にしなければならない。すなわち、常に鋭い探究心を持ち、自啓自発、学業に励み、学問をすることの厳しさと楽しさを体得できるよう努めなければならない。

（自由な人間）

- 3 学生は、自由を体得した人間になることを目標にしなければならない。すなわち、あらゆる問題に対処するとき、常に自分で考え、自分で判断して行動し、開いた心で他人の意見に耳を傾けながら、自分の目標に向かって独立独歩し、その結果について全責任を負う人間でなければならない。自分の自由を大切にする者は、他人の自由も尊重しなければならない。

（強健な身体）

- 4 学生は、在学中、あらゆる機会を利用して、積極的に身体を鍛えなければならない。強健な身体は、豊かな人生と立派な仕事を実現する第 1 条件であり、その基礎は、青年期の鍛錬によって出来上がる。

（学園社会への参加）

- 5 学生は、学校生活が社会的修練の第 1 歩であることを考え、まず学園の中に理想的な共同社会を作るための仕事に積極的に参加しなければならない。そのような参加の体験によって、人間としての自立心と社会的な連帯感が生まれ、現実社会の問題を解決する実践力が養われる。

（交友関係）

- 6 学生は、学校生活から得られる最大の宝は、心が通じ、互いに磨き合える生涯の友に巡り合うことであることを思い、心を開いて交友関係を深めなければならない。友とつき合うことによって、人間は、自分に厳しく、他人に優しくすべきこと、また、どんな場合に友と競い合い、どんな場合に助け合うべきかを知らなければならない。

（芸術・趣味・娯楽）

- 7 学生は、さまざまな芸術的感動に我を忘れたり、生々とした趣味・娯楽の世界に没頭したりする経験を大切にしなければならない。それは、人間性を豊かにし、技術者として重要な創造力の基礎である柔らかな思考力と鋭い直感力を育てるうえにも重要である。

（美しい人間と環境）

- 8 学生は、服装・あいさつ・言葉遣いが、自分自身の表現であることを忘れてはならない。すなわち、それらによって他人に不快感を与えないことを最低の目標とし、さらに進んでは、さわやかな言動、端正な服装、思いやりのある行動によって、自分と環境を美しいものに仕上げることに努めなければならない。

（自己変革）

- 9 学生は、上述のような人間形成の目標に向かって努力するとき、常に自分の可能性の限界に挑戦し、これまでの不可能を一つずつ克服して自己変革を推進する強固な意志と実行力を持たなければならない。自分自身の改造は、最も価値のある終生の大事業である。

（政治・宗教・性の問題）

- 10 学生は、政治・宗教・性に関する諸問題について悩んだり、重要な決断を迫られたりする場合には、必ず、信頼する年長者に意見を求めるよう心掛けなければならない。それは、これらの問題には人間を根底からゆるがす重大な課題が含まれている場合が多く、それに正しく対応するには適切な助言が必要であり、とり返しのつかない傷跡を残すような失敗を避けなければならないからである。

(車の運転)

- 11 オートバイや自動車は、近代工業技術から生み出した人間の交通手段であって、その便益を受けようとする者は、それに従う社会的責任を負担しなければならない。すなわち、学生がそれらを利用する場合には、特にエンジニアを志す者として、社会の安全に必要な交通法規を最大限に尊重し、人間技術の成果を十分に統御する技量を習得しなければならない。

(喫煙・飲酒)

- 12 喫煙と飲酒は、国法によって未成年者に禁止されている。特に喫煙は、単に社会的習俗又は個人的嗜好の問題というより、当人以外の周辺の人々の健康にも害を及ぼす反社会的行為であることが、近年厳しく指摘されている。若年者に対するアルコールの害も数多く例証されている。学校は、学生の喫煙が習慣化することを抑制する方針をとるとともに、喫煙・飲酒の風習を学園内に広めるおそれのある行為に対しては、懲戒その他の方法により反省を求める。

(道徳的非行)

- 13 学生は、誤って他人の人格を辱めたり、人権を侵したり、破廉恥な行為をしたりすることのないよう、常に正しい道義の感覚を養わなければならない。学校は、これらの非行に対しては、懲戒その他の方法により反省を求める。

木更津工業高等専門学校校歌

「風のランナー」

片岡 輝 作詞
坪能 克裕 作曲

♩ = 80

mf

mf

mf

mf

f 1. 2.

あ た か た お り き い と も よ い ま ま う け つ い で あ す へー む か っ て は し
か き な そ な てー と も よ い ま ま お い も と めー あ す へー む か っ て は し

え え り る る い し り え び と の ち え と わ ご こ こ ぼ り ゅ う る が す そ の
え り る る い し り え び と の ち え と わ ご こ こ ぼ り ゅ う る が す そ の

お か た ら ち か ぜ に み を す ま せ ば し お さ い に よ み が
さ つ き つ か か に い を な が け じ の う で よ み が

か さ つ き つ か か に い を な が け じ の う で よ み が

お か た ら ち か ぜ に み を す ま せ ば し お さ い に よ み が
さ つ き つ か か に い を な が け じ の う で よ み が

あ た か た お り き い と も よ い ま ま う け つ い で あ す へー む か っ て は し
か き な そ な てー と も よ い ま ま お い も と めー あ す へー む か っ て は し

あ た か た お り き い と も よ い ま ま う け つ い で あ す へー む か っ て は し
か き な そ な てー と も よ い ま ま お い も と めー あ す へー む か っ て は し

3.

れ い の ち の か ぎ り - あ す へ - む か っ て は し れ は し

れ は し れ

木更津工業高等学校校歌
「風のランナー」

作詞 片岡 輝
作曲 坪能 克裕

丘に立ち風に耳を澄ませば
潮騒によみがえりくる
いにしえびとの知恵と技
心揺るがすその熱き思いを
友よ いま受け継いで
明日へ向かって走れ

木更津の丘に集い学べば
時をこえよみがえりくる
真理へ寄せる愛と夢
希望あふれるその高き理想を
友よ いま追い求め
明日へ向かって走れ

さつき萌ゆ丘に技を磨けば
この腕によみがえりくる
創るよろこび生む力
地球の未来その肩に担って
友よ いま生命の限り
明日へ向かって走れ 走れ 走れ

友愛の丘

木更津高専学生歌

岡田 香津 作詞
寺内 昭 作曲

はつらつと $\text{♩} = 108$ mf

くおん のの れは きな
みよば なた のく そ

(V) mf f mf

しの うき たは うみ ーとて しお さ い や か に な
ひ め ゑ す す もら ーき した き いて また

mp

り ー ひ び く ー こ の ぼう そ の お か の う え ば り を て ら す
い ー つ ど う ー の の ゆう あい の お か の う え か た い けい を す な う
ゆ ー ま ー る ー の の せい し ゅん の お か の う え た い へい の

mp

f f f

ひわ り び と つ く と も よ ー ー なを ひ を と か も た せ
な す み も と へ も ー ー あす ら た ー う き た さ け
な す み も と へ も ー ー あす ら た ー う き た さ け

mp V mf marc f V

つよきかいなとむねをもてかきぎじゅんののとうたてん一
 やがてせかいにむはせんかたこわしかにくこのうたあげん一あ

mp mf marc f

あわれらきさらずのともーもー

1. 2. 3.

D.S.

木更津高専学生歌

友愛の丘

一、久遠の歴史うたう如
 潮騒さやかに鳴り響く

この房総の丘の上
 万里を照らす光とて

友よ、新たな火を点せ
 強き腕と胸をもて

高き技術の塔建てん
 ああわれら木更津の友

二、見よ菜の花の黄は満ちて
 蝶も五色に舞い集う

この友愛の丘の上
 固き絆を結びつつ

友よ、全てをいざ語れ
 やがて世界に馳せんため

まこと自然の学知らん
 ああわれら木更津の友

三、羽撃くその日めざす者
 われら鍛えて弛まざる

この青春の丘の上
 太平洋の波も聞く

友よ、心の歌叫べ
 創学の意気高らかに

永久に科学の旗あげん
 ああわれら木更津の友

平成29年度行事予定表

曜日	平成29年4月	5月	6月	7月	8月	9月	曜日
月	☆は行事のみの日	1 ☆ 新入生合宿研修/3.5年球技大会/2年休業日					月
火		2 ☆ 新入生合宿研修/2年校外学習(3.5年休業日)運動会/記念講演会			1		火
水		3 (憲法記念日)			2		水
木		4 (みどりの日)	1 開校記念日/通常授業		3		木
金		5 (こどもの日)	2		4	1	金
土	1 春学期休業	6 ホームカミングデー※1	3 第1回実用英検一次試験	1 第1回実用英検二次試験	5 オープンキャンパス	2	土
日	2	7 第1回TOEIC IP	4 第1回実用英検一次試験	2 第1回実用英検二次試験	6	3	日
月	3	8	5	3	7 授業終了後よりHR・大掃除	4	月
火	4 ☆ 入学式 ☆ 新入生保護者懇談会	9	6	4	8	5	火
水	5 ☆ 始業式 ☆ 新入生オリエンテーション	10	7	5	9	6	水
木	6 授業開始	11	8	6	10	7	木
金	7	12	9	7	11 (山の日)	8	金
土	8	13	10	8	12	9	土
日	9	14	11	9 第1回実用英検二次試験	13	10	日
月	10	15	12	10	14	11	月
火	11	16	13	11	15	12	火
水	12	17	14	12	16	13	水
木	13	18	15	13	17 夏学期休業	14	木
金	14 ☆ 健康診断	19	16	14	18	15	金
土	15	20	17	15	19	16	土
日	16	21	18	16	20	17	日
月	17	22	19	17 (海の日)	21	18 (敬老の日)	月
火	18	23	20	18	22	19	火
水	19	24	21	19	23	20	水
木	20	25 ☆ 体育祭※2	22	20	24	21	木
金	21	26	23	21	25	22	金
土	22	27	24	22	26	23 (秋分の日)	土
日	23	28 第11回工業実検	25	23	27	24	日
月	24	29	26	24	28	25	月
火	25	30	27	25	29	26	火
水	26	31	28	26	30	27	水
木	27		29	27	31	28	木
金	28		30	28		29	金
土	29 (昭和の日)			29		30 オープンキャンパス	土
日	30			30			日
月				31			月
火							火
その他行事	5 20 新入生歓迎会 歯科検診(1-3年生)	学友会総会 後援会総会 ※1 創立50周年行事 ※2 雨天時は6/15に延期	1 13 開校記念日 献血	1-2 15-16 地区体育大会 ソフトテニス サッカー	23-25 全国体育大会 テニス	17-18 22 地区文化発表会 (本校) 厚生指導研究会	その他行事
専攻科	5 ガイダンス	13 推薦選抜入学試験 25 スポーツデー	2 17 研究所見学 学力選抜入学試験		7 連絡会		専攻科
学芸	1 開寮(2年生以上) 2 開寮(新入生のみ) 3 入学式 4 新入生保護者昼食会 4夜- 掃除合宿(4/7まで) 7 自己紹介 11 寮生総会 新歓パーティ 15 クリーンデー 22 スポーツ大会	13 イモ苗植え 16 部屋点検 全寮集会 防災避難訓練(※1・※2) 19 寮生保護者会総会 20 バーベキュー大会 22 ~ 勉強会(6/8まで) 28 クリーンデー	13 17 部屋点検 全寮集会 クリーンデー	4 8 11 ~ 部屋点検 全寮集会 クリーンデー 勉強会(7/30まで)	5 11 クリーンデー 閉寮	24 開寮	学芸

平成29年度行事予定表

曜日	10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月	曜日
月	☆は行事のみの日			1 (元旦)			月
火				2			火
水		1		3			水
木		2		4	1	1	木
金		3 (文化の日)	1	5	2	2	金
土		4	2	6	3	3	土
日	1	5 第2回実用英検二次試験	3	7	4	4	日
月	2 後期授業開始	6	4	8 (成人の日)	5	5	月
火	3 7限より全校集会	7	5	9	6	6 成績審査会議(卒業)	火
水	4	8	6	10	7	7	水
木	5	9	7	11 3年学習到達度試験	8	8 本校第2志望者選抜	木
金	6	10	8	12	9	9 成績審査会議(修了)	金
土	7 第2回実用英検一次試験 第2回実用英検一次試験	11 第2回実用英検二次試験	9	13 第3回TOEIC IP	10	10 4年・専1年進路懇談会	土
日	8	12	10	14	11 (建国記念日)	11	日
月	9 (体育の日)	13	11	15	12 (振替休日)	12	月
火	10	14	12	16	13	13 入学手続き(予定)	火
水	11 月曜授業	15	13	17	14	14 休業	水
木	12 1～3年hyperQ-U(HR)	16	14	18	15	15	木
金	13	17	15	19	16 月曜授業 授業終了後HR・教室清掃	16 卒業式・修了式	金
土	14 第2回TOEIC IP	18 創立50周年式典	16	20 第3回実用英検一次試験 第3回実用英検一次試験	17 第3回実用英検二次試験 学力入学者選抜	17	土
日	15	19 第113回工業英検	17	21	18	18	日
月	16	20	18	22	19 休業日	19	月
火	17	21	19 ☆ マラソン大会※	23 7限よりHR・教室清掃	20 休業日	20	火
水	18	22	20	24 推薦入学者選抜	21 ↑卒業発表会 ↓補講期間	21 (春分の日)	水
木	19	23 (勤労感謝の日)	21	25 休業日	22	22	木
金	20	24	22 授業終了後よりHR・教室清掃	26	23 ↑卒業発表会 ↓補講期間	23 7限よりHR 大掃除・終業式	金
土	21	25	23 ★天皇誕生日	27 第144回工業英検	24	24	土
日	22	26	24	28	25 第3回実用英検二次試験	25	日
月	23	27	25	29	26 ↑卒業発表会 ↓補講期間	26	月
火	24	28	26	30	27 ↑卒業発表会 ↓補講期間	27	火
水	25	29	27	31	28	28	水
木	26	30	28			29	木
金	27 ☆ 学園祭に伴う休業日		29			30	金
土	28 ☆ 学園祭		30			31 ↓	土
日	29 ☆ 学園祭		31				日
月	30 ☆ 学園祭に伴う休業日						月
火	31 金曜授業						火
その他行事	8-9 プロフェッショナルコンテスト (大島商船高専) 28 防災避難訓練 29 保護者全体懇談会 献血 ロボコン地区大会 (長野高専)	18 地区英語弁論大会 (茨城高専)	2-3 デザンコンペティション (岐阜高専) 3 ロボコン全国大会 (両国国技館) ※ 雨天原延無し 学友会役員選挙	27-28 英語プレコン (弓削商船高専)		5年生のHR教室／卒研発表 M 第1講義室／マルチA B マルチA／第6講義室 D マルチB／第2講義室 J 第4講義室／第1講義室 C 第5講義室／階段教室	その他行事
専攻科	3 連絡会		19 特別研究中間発表 スローガン／連絡懇談会	12 特別研究抄録原稿提出 特別研究発表会	9 成績審査会議(修了)		専攻科
学芸	1 学芸リーダー研修会 6 全学集会 10 防犯避難訓練 14 クリスマス会 21 芋掘り	7 部屋点検、全学集会 11 クリンデー 13 勉強会(11/30まで)	5 部屋点検、全学集会 9 クリンデー 11 選挙権日出日 12 クリスマスパーティー 14 選挙公示(～23日) 23 閉会	8 閉会 13 クリンデー 16 学友会役員選挙 19 勉強会(2/7まで)	13 全学集会、部屋点検 卒業式 クリンデー 24 学芸リーダー研修会 閉会	部屋点検16:10～ 全学集会16:40～ その他の行事 ・群衆会(毎週火曜17:00～) ※テスト週間前から開催しない。	学芸

平成29年度 専攻科 行事予定表

月	日(曜)	本 科 行 事 予 定	専 攻 科 行 事 予 定	
			1年	2年
4	1(土)	春季休業(～3日(月))	春季休業(～3日(月))	
	4(火)	入学式	入学式	
	5(水)	始業式	専攻科ガイダンス	授業ガイダンス
	6(木)	授業開始	授業開始	
	14(金)	健康診断	健康診断	
5	1(月)	新入生合宿研修・2年休業日・3～5球技大会		
	2(火)	2年生校外学習・3年以上は休業日	金曜授業(*6/2研究所見学の振替)	
	13(土)		推薦選抜入学試験	
	25(木)	体育祭※雨天6/15(木)	スポーツデー※雨天6/15(木)	
	26(金)	開校記念日(通常授業)	開校記念日(通常授業)	
6	2(金)		専攻科研究所見学	
	5(月)	前期中間試験(～9日(金))		
	中旬		放送大学出願期間(6/15～)	
	17(土)		学力選抜入学試験	
	25(火)	前期定期試験(～7月31日(月))		
8	7(月)	授業終了後よりHR・大掃除	授業終了後より連絡会・大掃除	
	8(火)	夏季休業(～9月24日(日))	夏季休業(～9月24日(日))	
9	25(月)	補講期間(～29日(金))		
10	2(月)	後期授業開始	後期授業開始	
	3(火)	7限より全校集会	7限より連絡会	
	11(水)	月曜授業	月曜授業	
	27(金)	学園祭に伴う休業日	学園祭に伴う休業日	
	28(土)	学園祭(～29日(日))	学園祭(～29日(日))	
	30(月)	学園祭に伴う休業日	学園祭に伴う休業日	
	31(火)	金曜授業	金曜授業	
11	11(土)		社会人特別選抜入学試験	
	18(土)	創立50周年式典	創立50周年式典	
	27(月)	後期中間試験(～12月1日(金))		
12	上旬		放送大学出願期間(～2/28)	
	中下旬		特別研究中間発表会	
	19(火)	マラソン大会※雨天時中止	午前・スポーツデー、午後・進路懇談会※雨天時中止	
	22(金)	授業終了後よりHR・教室清掃	授業終了後より専攻科連絡会・教室清掃	
	23(土)	冬季休業(～1月8日(月))	冬季休業(～1月8日)	
1	9(火)	授業開始	授業開始	
	中旬			特別研究抄録原稿提出
	中下旬			特別研究審査用本論文提出
	24(水)	臨時休業(推薦入学試験)	臨時休業(推薦入学試験)	
	25(木)	臨時休業	臨時休業	
	26(金)		特別研究発表会出席	特別研究発表会
2	1(木)		専攻科成績締切り	
	2(金)	後期定期試験(～8日(木))		
	9(金)			専攻科修了認定会議
	16(金)	月曜授業・授業終了後よりHR・教室清掃	月曜授業	
	18(日)	学力入学試験		
	19・20(月・火)	臨時休業	臨時休業	
	24(土)	学年末休業	学年末休業	
3	6(火)	成績審査会議(卒業)		
	9(金)	成績審査会議(修了)	成績審査会議	
	10(土)	進路懇談会(保護者)	進路懇談会(保護者)	
	中旬			学位授与可否通知
	16(金)	卒業式	修了式	